



【ファースト・クリスマス】

聖書：ルカの福音書2章25-38節・暗唱聖句：ルカの福音書2章10-11節

説教者：鄭南哲牧師

イギリスのブリジエンド(Bridgend)という町で一人暮らしをしていた95歳のあるおばあさんの家にクリスマスイブの夜一人の青年が訪ねて来ました。彼は特にこのクリスマスシーズンに一人で寂しく暮らしていたおばあさんのためにクリスマスキャロルを歌ってあげたいと思って来たと言う事でした。何と嬉しい事でありがたかったのでしょうか。

その青年が歌ってくれるクリスマスの歌はとても上手で、その歌を聴きながら嬉しくておばあさんは涙を流しました。

その青年は2曲を歌ったらのどが渴いたので、おばあさんにお水一杯をたのみました。

すると、おばあさんはすぐ台所に行ってお湯を沸かし、温かい紅茶を作って持って来ました。

ところが、その青年は見えなくなりました。それだけではなく、おばあさんの財布の中にあった95ポンド(約17,527円)もなくなりました。実はその青年は一人暮らしのおばあさんを騙(だま)し取ってお金を盗む目的で訪ねたわけです。

おばあさんは盗まれた金よりクリスマスを盗まれたことに心を痛め、嘆いたようです。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰家族のみなさん、今年も多くの人々がクリスマスを違う目的で過ごそうとしているのを見ると心を痛みませんか。まず、我々から正しくクリスマスを過ごすだけではなく、周りの人々も相応しく過ごせるように知らせるべきであります。

降誕節を英語でクリスマス(Christmas)だと言います。

“Christmas”だという言葉の意味はみなさんもよくご存知のようにキリスト(Christ)とマス(Mass)が合わせられた言葉であります。キリスト(Christ)という意味は旧約聖書で預言された油注がれた救い主を意味しています。旧約聖書では王、祭司長、預言者のみに油を注ぎ任命されました。イエスをキリストと言うのは聖霊を象徴する油注がれ、真の平和の王として、取り成しをして下さる真の大祭司として、神の救いの道であり、それを教えて下さった真の預言者として来られた救い主であることを意味する言葉であります。

そして、マス(Mass)という言葉はラテン語 “missa” から由来した言葉で訳すると“礼拝、敬拝”意味であります。

ですから、クリスマスという言葉は“イエスをキリスト、救い主として礼拝する”意味になります。

それではどうすることがイエスキリストを救い主として相応しく立てるのでしょうか。

イエスキリストがお生まれになった初のクリスマスの時に人々がどのように拝していたのかを見ると良いと思います。

1. まず、どんな人たちが初のクリスマスの時に敬拝しましたか。

新約聖書の中でマタイの福音書とルカの福音書にはお生まれになったイエスキリストに直接拝していた人々の内容が記録されています。マタイの福音書には東邦の博士たちが輝いていた星について進んで来て、ついにお生まれになった幼子のイエス様のところまで来て拝みました(マタイ2:1-12)。ルカの福音書では野宿で夜番しながら羊の群れを見守っていた羊飼いたちが御使いの知らせ(“きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。(11節)”)を聞いてから、急いで布にくるまって飼葉おけに寝ておられるみどりごを探し当てて神をあがめ、賛美していた事が分ります(ルカ2:8-20)。そして、御誕生から八日を経てヨセフとマリアは幼子連れて聖殿に上った時、聖殿の中にいたシメオンとアンナはずっと預言され、待ち望んで来たメシヤなる救い主がイエス様であることを知り、神の御名をほめたたえました。

ユダヤ人ではなかった東邦の博士たち、貧しかった羊飼いたち、神の御言葉と祈りを大切にする敬虔な信仰を持っていたシメオンとアンナまで、このようにいろんな人々がイエス様がお生まれになった時、そのみどりごがキリストつまり、待ち望んでいた救い主である事を知り、礼拝を捧げました。彼らの共通点はあまりありませんが、ただ一つ、今の自分たちの罪、限界、大変な環境などから救って下さる救い主を切に待ち望んでいた人々であることが分りました。

彼らが礼拝し、拝んでいたみどりごイエスの姿は表では単なる普通の赤ちゃんにすぎませんでした。しかし、初のクリスマスにイエス様を礼拝した人々はみどりごがメシヤなるイエスキリストである事を疑わず、確信していました。

ここで我々は彼らの姿を通して学ばなければならない姿があります。

2. 初のクリスマスにみどりごイエスキリストを礼拝した人々は1) 何かの利益を得るために礼拝したではありません。

初のクリスマスにみどりごイエスに礼拝をささげた人々は何ももらってません。むしろ東邦の博士らは高価な贈り物を持ってきました。彼らが住んでいたところは具体的にどこなのか分りませんが、東邦は一般的にペルシアもしくはバビロンを指しているの相当、遠くから来た可能性が高いです。ある聖書学者たちは東邦の博士らが星を目印(めじるし)におよそ2年ほど旅をしたのではないかと推測しています。しかも、星をみながら、動いてきたので、夜だけ動くことによりいっそう大変だったと思われます。相当の経費もかかったはずで、たくさん時間と金をかけて、遠くから来て、みどりごイエスに礼拝しましたが、もらったものは何もありません。人間的な観点から計算するなら、東邦の博士らがかなりの損をした人々に違いありません。なのに、彼らはマタイ2:10で“その星を見て、彼らはこの上もなく喜んだ。”と記録されています。

東邦の博士らは損しながら、みどりごイエスに礼拝をささげた事を少しも惜しんでいません。むしろ、自分たちの生涯において一番の喜びと、ほこりとして覚えると思います。

羊を守っていた羊飼いたちも同じです。天使たちが伝える知らせを聞いて、急いで、ベツレヘムに駆けつけました。しかし、彼らがベツレヘムに行くためには、羊の群れを野原におきっぱなしにして行くことになり、これは非常に危ないことです。ですから、野宿で夜番をしていた羊飼いたちが幼子イエスを訪ね、礼拝をささげることは大変な冒険に違いありません。ここで、私たちが注目しておきたいことは、当時ローマの皇帝アウグストによる住民登録という勅令が出されたので、ヨセフとマリアもベツレヘムに行きました。なのに、なぜ羊飼いたちは故郷のベツレヘムに行かずに羊の群れを見守っているのですか。それは羊飼いの中では、自分の羊を飼っている人もいましたが、大

体はしもべが多かったわけです。ですから、自分の羊ではなく、ご主人の羊の群れをおき放しにしていこうと言うことはとても大変なことです。しかし、羊飼いたちは羊の群れを置いて、ベツレヘムに行って礼拝をささげる冒険を選びました。そんな彼らに礼拝後、もらったものは何もありませんでした。

シメオンとアンナの場合も同じです。彼らは東邦の博士らのように遠くから来た人々ではありませんが、一生を来られるイエス様を待っていた人々です。アンナは結婚7年後、やもめになって、84歳まで宮を離れないで、夜も昼も断食と祈りをもって神に仕えていました。シメオンとアンナは幼子イエスを抱いた瞬間自分たちがいままで生きてきた理由がこの幼子にあったことを悟りました。そういうわけで、シメオンはこのような告白をします。“主よ。今こそあなたは、あなたのしもべを、みことばどおり、安らかに去らせてくださいます。私の目があなたの御救いを見たからです。”

シメオンとアンナが一生、イエス様を待ち望み、礼拝を捧げたのは、なにかの祝福や、個人の願いをかなうためではなかったのです。彼らのささげた礼拝こそ、この世にない尊い礼拝だったと言えると思います。

愛する信仰の家族のみなさん！ みなさんは神様の宮である教会に来られる時どんな心構えで来たのでしょうか？ みなさんは神様に祈る時何を求めますか？ 目に見える祝福を期待しながら、自分の願いばかりをささげている姿はないでしょうか？

礼拝というのは何でしょうか？ 自分の罪により、永遠の刑罰を受けなければならない私たち一人一人のために神様がイエスキリストをこの地に送ってくださいました。そして、さらに私たちの罪のゆえに身代わりとして神様のひとり子イエス様を十字架につけさせるほど私たちが愛して下さった神様の愛と恵みに感謝し、感激してささげることが真の礼拝です。

ですから、まことのクリスマスの礼拝というのは当然感謝と喜びのあふれる礼拝として捧げましょう。賛美には感激の涙があり、感謝の溢れる祈りとなり、みことばにアーメンと応答する礼拝となりますように切に願います。

2) 初のクリスマスに礼拝をささげた人々は神様の計画と摂理を見る事が出来ました。

初のクリスマスに礼拝をささげた人々の目に見えるイエス様はただのみすぼらしい赤ん坊でした。しかし、彼らはその幼子イエスから人類を救おうとする神様の計画と摂理を見る事が出来ました。どうやってそれを見通す事ができたのでしょうか？

東邦の博士らが遠くから来て礼拝をささげたのがその証拠です。もし、東邦の博士らにユダヤ人の王、世界を救う王が生まれたと言う確信がなかったなら、あんなに遠いところから、毎晩、歩いて来て、礼拝する事は考えられないことです。そして、羊飼いたちも布に包まれている幼子が人類を救う救い主であることを当然信じていたので、羊の群れを置いたまま、来て礼拝をささげました。シメオンは本文の30-32節で“私の目があなたの御救いを見たからです。御救いはあなたが万民の前に備えられたもので、異邦人を照らす啓示の光、御民イスラエルの光栄です。”と主をほめたたえました。

目の前に見えているのは幼子でしたが、シメオンは“私の目があなたの御救いを見たからです”つまり、幼子イエスが人類を救う救い主として見たのです。そこにいたアンナも幼子イエスについて“エルサレムの贖いを待ち望んでいるすべての人々に、この幼子のことを語った”つまり、84歳のアンナおばあさんはこの幼子こそがエルサレムの贖い主となる事を人々に語りました。ですから、初のクリスマスに礼拝をささげた人々は現在の姿ではなく、神様のご計画と摂理を見て捧げたわけです。もちろん、彼らは特別な啓示を受けました。

東邦の博士らは輝いている星を見ました。羊飼いたちには御使いたちが現われ、シメオンとアンナは聖霊の指示がありました。しかし、ここで、我々が覚えるべきことは、空で輝いている星は東邦の博士らだけ見れたわけではありません。だれでも見れるように星が現われましたが、その意味を知って訪ねた人は東邦の博士らだけでした。なぜなら、空をみあげない人は、どんなに星がかがやいてもその星を見ることはできず、その意味もわからないように、肉的な、人間社会に絡(から)まれている人々には霊的洞察力は期待できないからです。

これをマタイ2:2に“ユダヤ人の王としてお生まれになった方はどこにおいでになります。私たちは、東のほうでその方の星を見たので、拝みにまいりました。”と記録しました。ここで、覚えてほしいことは、東のほうはどこなのか正確には分かりませんが、当時中東地方は星占いがとても発達していて、星占いをする者たちは、権力と密接な関係がありました。しかし、東邦から来た博士らが“ユダヤ人の王”であることを知って来たと言う事は、権力を得るためではないと言うことです。これは言い換えると、多くの星占い師らが、権力を手に入れるために、へつらいを言うその世界で落胆し、新しい時代、神様の救いと恵みの時代の到来を待ち望んでいた人々が東邦の博士らだったのです。かりに、彼らが権力を得るために来たなら、自分たちが拝んだことに対するしるしや保証をもらおうとしたと思います。しかし、彼らは純粋に礼拝し、神様の指示通り、ヘロデ王にも知らせないで、他の道に帰りました。

そして、野宿の夜番をしていた羊飼いたちはどうでしたか？ ルカ2:13によると“すると、たちまち、その御使いといっしょに、多くの天の軍勢が現われて、神を賛美して言った。” 静かな夜に響く賛美声はもっと大きく聞こえるはずなので、多くの天の軍勢と御使いの歌声の振動はすごかったと思います。御使いが羊飼いに現われて救い主の誕生を知らせた所とイエス様が生まれたところは、そんなに遠くなかったのです。当時、ベツレヘムに住んでいた人なら軍勢の歌声を十分聞けたはずです。そして、当時ベツレヘムは住民登録の勅令が出されていたので、ヨセフとマリヤが泊まるどころすら見つからず、馬小屋で出産をするほど多くの人々が集まっていたはずですが、ここで注目するところは多くの天の軍勢と御使いの賛美を聞いた人は少数の羊飼いだけでした。

なぜなら、当時ベツレヘムに住んでいた人々はローマの皇帝の住民登録の勅令によって多くの人々がベツレヘムに来ていたので、お金を儲けるのに必死だったかもしれません。ですから、世の事に気が捕らわれた人々は多くの天の軍勢と御使いの歌声を聴く耳も、姿勢もなかったため、聞く事ができませんでした。欲張らず、与えられた仕事に黙々と羊の群れを見守っていた羊飼いたちは多くの天の軍勢と御使いたちの賛美を聞いて、訪ねてきて礼拝を捧げる事が出来ました。

そして、幼子イエスがキリストである事実を聖霊はシメオンとアンナだけに知らせてくださいました。

なぜなら、彼らは神様を心から愛し、仕えていた敬虔な人々だったからです。これを他に表現すると、霊的世界を見れる霊的力はだれもに与えられるわけではありません。東邦の博士らが星を見れたことや、羊飼いたちに御使いが現われたこと、シメオンとアンナに聖霊の

知らせがあったことは決して偶然のことではありません。

初のクリスマスに幼子イエスに礼拝をささげた人々から学ばされる事があります。それはマタイ6:31-33でイエス様が“何を食べるか、何を飲むか、何を着るか、などと言って心配するのはやめなさい。こういうものはみな、異邦人が切に求めているものなのです。しかし、あなたがたの天の父は、それがみなあなたがたに必要である事を知っておられます。だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。”言われたように、この地上のものだけに未練を置いたり、捕らわれないうで、まず、神の国とその義とを求めることにはげまなければなりません。

これを言い換えると、初のクリスマスに来て礼拝をささげた人々のように目に見える利益を得るために頑張らないで、いまはすぐに益にならなくてもイエス様がこの世を裁くために再び来られた時、“よくやった。良い忠実なしもべよ。”とほめられる者になることを願っていきましょう。ということです。

なぜなら、聖なるキリストの誕生の良い知らせはまことに神様を愛し、神様の救いと恵みを求め、自分を無にし、整えられた者に伝わるからです。今年2015年のクリスマスを迎えて、初のクリスマスに幼子イエスに来て礼拝をささげた人々のように我々に来てくださった神様から与えられた最高のクリスマスのプレゼントなる救い主イエスキリストを信じ受け入れるすばらしい日となるように祝福します。そして、すでにこのすばらしいプレゼントをいただいた方々は救い主なる神様、イエスキリストの救いを喜び、感謝し、賛美しましょう。そして、まだこの救いの良い知らせを知らない方々に喜んで分け与え、伝えるみなさんとなりますよう、主イエス。キリストの御名によって祝福し祈ります。アーメン!